

## 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり(骨子)

認知症高齢者は、平成 22 (2010) 年で全国に約 208 万人いるといわれており、10 年後の平成 32 (2020) 年には約 289 万人まで増加すると推計されている (平成 15 年 6 月 厚生労働省老健局推計)。仙台市においても、平成 22 年で約 1 万 6 千人、平成 32 年には約 2 万 5 千人の認知症高齢者がいると見込まれている (仙台市健康福祉局推計)。

また、「高齢者一般調査」によると、介護予防として今後仙台市に力を入れて取り組んでほしいことについては、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」とした方が 58.3%と最も多い。

このようなことから、今後、仙台市においても急速に認知症の方が増えていくことを十分認識した上で、行政及び関係団体で構成する仙台市認知症対策推進会議で基本目標としている「あらゆる世代一人ひとりが、認知症について正しく理解し、『認知症になっても安心して暮らせるまちづくり』について考え行動できる社会を目指す」ための施策を一層推進する必要がある。

### 1 認知症の人とその家族への支援

高齢化の進展に伴い認知症高齢者が増加していくこと、同居世帯が減少し、一人暮らしや高齢者のみ世帯が増加していく状況を踏まえ、例え認知症になっても、本人や家族が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、本人や家族に対する様々な支援を行う。

今後新たに検討する事業

今後見直しあるいは拡充していく事業

継続事業

主な施策	概 要
認知症の人とその家族への支援	物の忘れ電話相談の設置 介護経験者が講師となり、認知症に関する知識や介護に関する経験談、アドバイス等を聞くことができる相談会の開催 認知症の方を介護する家族同士が、様々な場所で自身の介護体験や悩みについて話し合うことができる交流会の開催 シルバーセンターにおける介護の基礎を学ぶ講座の開催 認知症の方もそうでない方も、あらゆる世代の方が共に楽しみながら認知症に対する理解を深めてもらうイベントの開催 地区社会福祉協議会、老人クラブ等による地域の支え合い支援はいかい等により行方が分からなくなった高齢者を早期に発見・保護するための SOS ネットワークシステムにおける警察署、タクシー会社等関係機関との連携

## 2 支援体制の充実

認知症に関する正しい知識の普及を進めるとともに、医療、介護の分野における支援体制の充実、関係機関の連携強化を通じて、認知症の方やその家族を地域で支える体制の充実を図る。

主な施策	概要
地域における支え合いの推進	認知症サポーター養成講座運営事務局の設置 学校や職場など、これからの社会を支える若い世代を対象とした認知症サポーター養成講座の積極的な開催にむけた支援 地域ケア全体会議や担当圏域包括ケア会議等の開催による地域の関係機関との連携強化 認知症地域資源マップの作成等を通じた地域における支援体制の構築の推進
認知症介護の質の向上	認知症介護研修の実施 シルバーセンターにおける介護講座の実施 研修事業等における認知症介護指導者ネットワーク仙台との連携 認知症介護研究・研修センターにて研究・開発された研修プログラム等の活用
早期発見・早期対応の促進	かかりつけ医と認知症専門医療機関等との連携の促進等を目的とした認知症地域医療支援事業企画会議の開催 かかりつけ医に加え、看護師や薬剤師等を対象とした研修の開催 認知症疾患医療センターによる鑑別診断や相談、保健医療福祉分野との連携
関係機関の連携強化	認知症対策推進会議の運営による認知症の「普及啓発」「支援体制」「関係機関のネットワーク」の仕組みづくり 認知症に関する的確なアセスメントの普及と、関係機関による円滑な情報共有の推進